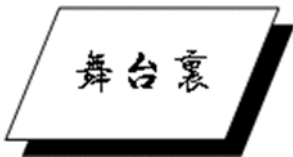


<JOYニュース 舞台裏>



舞台裏

9月の終わりに、JOY 倶楽部利用者、Tくんのお母さんが突然亡くなった。心からご冥福をお祈りするとともに、ごゆっくりとお休みください。と申し上げたいところであるが、お母さんの心情を察すると、とんでもない息子をひとりおいて、“ゆっくりと休めるところなんぞに逝けますか”と、近くから声が聞こえて来そうである。無念であろう。冥土に逝けず、上の方でT君の名を呼びながら、風になって吹いているのではと想うと無情である。いろいろ複雑な想い、他人事ではない、自分の状況と重ね合わせ、胸の痛みを抑えながら見送りしたしだいである。

みなさんは、どんな想いをめぐらせて、手を合わせたことでしょうか。2年前にお父さんが亡くなり、それからふたり、お母さんは、高齢でありながら長年の病で、自分の命とも闘いながらの生活。知的障害を持ったT君を必死で支えながら一生懸命な姿を追うと自然と涙がこみ上げてくる。重ねて、ご冥福を祈り、やすらかに眠りくださいと申し上げたい。

その後、T君は役所と地域のショートステイの暖かい支援を戴きながら、元気にJOY 倶楽部に通っている。T君は音楽が大好きである。本当は寂しくて、寂しくて、どうしようもない筈なのに音楽を演奏することで心の支え、生きる支えとなっているように見える。演奏をするとき生き生きとしている。これから彼の人生と演奏活動は切り離せないものであろう。

今後は、幸いに、お兄さん夫婦が同居して生活するとの事であり、ひとまずは安心であるが、不安も残る。このような現実直面した時、JOY 倶楽部に受け入れ体制がない。何とかしたいとの思いは強いけれど無念である。これから利用者の父母はおのずと高齢化してゆく。いつ、同じ事が、われわれの身に降って来るか、備えを認識する時期に来ていると思う。そこで皆さんに呼びかけたい。親亡きあと、JOY 倶楽部のみんなが、生涯、安心して生活できる場所“安心の家”を、と！私たち親も安ずることなく“旅立ちの衣”がまとえるように、みなさんと思いをひとつにして、今のうちに、子供たちの棲家のあゆみを進めようではありませんか。

法人理事 坂口邦博